

申請者: 今村有里子

論文題目 アジア諸国の株式市場
— グローバル化と国際間連動性 —

審査員 釜江廣志
清水啓典
大久保隆

本論文は、1997年7月のタイのバーツ切下げを発端とするアジア通貨危機の波及効果を、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、韓国、台湾、香港、シンガポールを対象として分析し、さらにアジア全体に大きな影響力をもつ日本と米国を考慮に入れて日・米・アジア諸国間の株価連動性も分析する。

本論文の評価できる点は次の2点である。まず、通貨危機をきっかけとして、アジア諸国間の株価連動性の高まりが観察され、日・米両国のアジア諸国の株価に対する影響力は、通貨危機以後に強まっており、日・米・アジアの株式市場のグローバル化が進展している可能性を指摘したこと、アジア諸国の株式市場グローバル化の進展は日・米からの影響によるところが大きく、国際間の株価の結びつきはファンダメンタルズのそれよりも強く、国際間の株価の関連性をファンダメンタルズによっては説明できないことを明らかにした点である。第2は、計量分析の方法として共和分検定、GMMなどの他、Lag-Augmented VAR法といった新しい手法も積極的に利用し、精緻な分析を行っていることがあげられる。

残された課題としては、次の2点があげられる。まず、連動性の原因を探るのに際して、為替や制度の要因を取りこみ、アジアのみならず他の地域も視野に入れた、より明示的なモデルを使って分析を行うことが望まれる。また、実証分析に関して、本論文でを使用したもの以外のデータと方法を採用することにより、主張をより強くすることが必要であろう。

本論文には上のような課題も残されているが、その貢献は十分にこれらの課題・問題を上回っている。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせて考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定に準じた取り扱いにより一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。